

令和 8 年度第 1 回茅ヶ崎市市民活動推進委員会 会議録

議題	令和 7 年度実施市民活動推進補助事業 実施報告会
日時	令和 8 年 6 月 1 3 日（土） 1 3 時 0 0 分から 1 6 時 3 0 分
場所	市役所本庁舎 1 階 市民ふれあいプラザ
出席者氏名	山口敦史 清水友美 高山和茂 坂田美保子 四條邦夫 若林英俊 山田修嗣 事務局 7 名（くらし安心部市民自治推進課） 岩井部長、廣瀬課長、小松課長補佐、重田副主幹、熊澤主査、 佐藤副主査、服部副主査
欠席者	間山孝仁 川越龍之介 船山福憲
会議の公開・ 非公開	公開
傍聴者数	2 1 人

○事務局

皆様こんにちは。本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

ただいまより、「令和7年度実施 市民活動推進補助事業（市民活動げんき基金補助事業）実施報告会」を開会いたします。

本日の司会進行を務めます市民自治推進課の小松と申します。よろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、佐藤市長よりご挨拶申し上げます。

○市長

皆様こんにちは。市長の佐藤光でございます。

団体の皆様におかれましては、市民活動げんき基金を活用し活動いただきありがとうございます。こういった活動は、一過性で終わらせずに持続可能な事業とすることが大切ですので、どのようにしたら事業費が捻出できるのかといったことも行政としても検討しながら、皆様とともに茅ヶ崎市を良くしていきたいと思っております。

本当に暑い夏がまた来そうな予感がしております。どうぞお身体には十分ご自愛いただき、熱中症等には気を付けていただきながら、また今年度も様々な活動を続けていっていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

佐藤市長、ありがとうございました。

続きまして、市民活動推進委員会の山田修嗣委員長よりご挨拶を申し上げるとともに、各委員をご紹介いたします。委員長よろしくお願いいたします。

○山田委員長

皆様、こんにちは。

茅ヶ崎市市民活動推進委員会の山田と申します。委員会を代表いたしまして、ご挨拶を申し上げます。

私は6年ほど前まで茅ヶ崎に勤めておりまして、在勤の形で市民でした。今は職場が変わってしまいましたので、関係者として、茅ヶ崎市民という形で、様々な活動に携わらせていただいています。

当時から、茅ヶ崎市は夏が似合うというふうに思っておりましたが、最近はそれだけではうまく事が回らないようなことも起きて参りました。そういう意味では、街のあり方、街の様子も含めて、さらに飛躍、発展するための変化が、常に茅ヶ崎市は問われているのではないかなと思います。今日は皆さんの活動の成果をご報告いただけるということで、私自身も楽しみに会場に伺いました。

市民活動げんき基金補助事業ですが、皆様もよくご存じの通り、愛称がげんき基金と言います。市の目的というのがありまして、繰り返しになりますけども紹介させていただきます。市民活動を推進するための環境を整備し、市民活動の活性化を図ることにより、活力溢れる地域社会の実現を目指すことを目的としてつくられた基金です。従いまして、市は皆様の活動を精一杯応援し、皆様は、その活動によって、茅ヶ崎という地域社会をより明るく豊かに、つまり元気にしていただくという理念で、行われているものです。

これは平成17年から実施されています。平成17年と言うといつでしょうか。全然印象に上ってこないですね。西暦で言うと2005年です。つまり21年経過していますので、この仕組みは「子どもの成人」をすでに迎えているということになります。

だからこそ、皆様の、その年度ごとの活動が、そうした21回分の取り組みの蓄積を経て、茅ヶ崎の明るい現実と展望を開いてくださっているというふうに、すごく強く感じるところがあります。

これまでもいろいろな形で支援を、市としてはしてまいりましたし、委員会は活動の審査をしてまいりました。今日も市長から事前に、評価の指標を提示してくださいという依頼がありました。それに従って、これから、皆様の報告を聞かせていただきます。そういった意味で

は、今日は6団体が来てくださっていますが、皆さんが主役であり、これからの報告が今日のメインテーマということになるかと思います。

皆様の実績報告の内容をお聞かせいただきながら、事前に資料でもお預かりしていますので、それも拝見しつつ、今日は委員会からのコメント、感想等も含めて、対話をさせていただきたいと思っています。

限られた時間の報告で大変恐縮ですが、活動の成果をお知らせいただければというふうに思っています。

それでは、名簿順に、委員を紹介します。

(各委員紹介)

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

山田委員長、ありがとうございました。

それでは、本日の報告会の流れについて、簡単にご説明申し上げます。お配りしております「市民活動推進補助事業 令和7年度事業実施報告会」冊子をご覧ください。冊子の1ページをご覧ください。

本日、これから14時30分ごろまでのお時間で、令和7年度に実施した市民活動げんき基金補助事業のスタート支援の部について報告をいただく予定です。

報告の時間配分についてご説明します。最初に、団体より10分以内で、事業についての説明をしていただきます。時間管理について申し上げますと、まず、終了1分前に、1度ベルを鳴らします。予定時間の10分を経過したところで、2度ベルを鳴らします。説明中に2度ベルが鳴りましたら、途中でであっても速やかに説明を終了してください。思いのこもった事業を短い時間でアピールすることは大変なこととは思いますが、円滑な進行にご協力いただきますようお願いいたします。

説明が終わりましたら、市民活動推進委員会委員との質疑応答や委員から評価コメントをお伝えする時間となります。こちらは12分を予定しています。

質疑、評価コメントの途中でベルが鳴りましたら、そのやりとりを最後とさせていただきます。委員及び団体の皆様には、1問ずつ、できるだけ簡潔なやりとりをお願いしたいと思います。

なお、委員の皆様からの評価コメントにつきましては、各委員それぞれの経験や立場からお伝えするものですので、多様な視点からの助言や応援のメッセージとしてお受け取りいただければと思います。

また、本日お伝えいただく評価コメント及び本報告会終了後に委員の皆様からご提出いただく評価につきましては、後日取りまとめのうえ、団体の皆様へお送りいたします。今後の活動の参考にしていただければと思います。

評価の基準は、冊子3ページのとおりです。

また、本日の報告会の様子を撮影させていただきます。撮影した写真は、市ホームページや広報等で使用させていただく場合がございますので、支障のある方は、お近くの職員までお申し出ください。

最後になりますが、この補助金は、「市民活動げんき基金」を原資とする補助金です。「市民活動げんき基金」は、市民の皆様からのご寄附で成り立っております。冊子5ページに、ご寄附いただいた方々を記載しております。

皆様からのご寄附がなければ、この補助金はいずれなくなってしまうと思います。本日は、会場内に市民活動げんき基金の募金箱を用意しているほか、冊子裏表紙に寄附申し込み用の二次元コードを記載しております。ご来場の皆様におかれましては、制度の趣旨をご理解いただき、どうかご協力いただければ幸いです。

最後に、発言に際しての注意事項です。皆様の目の前にマイクがあると思いますが、ご発言されるときは必ずマイクの丸いボタンを押していただいて、赤く光っていることを確認してか

らご発言いただければと思います。

ご説明は以上となりますが、よろしいでしょうか。それでは早速1団体目からスタートさせていただきます。

それでは、茅ヶ崎CAD部、事業名「3Dプリンターで未来のものづくりを体験しよう！」の報告をしていただきます。よろしくお願いします。

○茅ヶ崎CAD部

(茅ヶ崎CAD部 報告)

○事務局

それでは質疑、評価コメントに移ります。山田委員長よろしく願いいたします。

○山田委員長

ありがとうございます。今紹介がありましたが、スクリーンの真ん中の写真が市長だそうです。本当は、こういった写真も紹介したかったのに、時間の関係で省略したそうです。活動のさまざまなことについても、このあと質疑応答をさせていただきたいと思います。

委員の皆様からのご質問、ご意見、コメント、応援メッセージ等ありましたらお聞かせください。いかがでしょうか。

○山口委員

発表ありがとうございます。3点お伺いしたいことがあります。

まず、収支の決算書ですが、通信運搬費と印刷製本費、使用料・賃貸料について、費用の記載はありますが、内訳がありません。公開プレゼンのときにお話しがあったイベントチラシなど、どういうものを作られて、どれぐらい効果があったのかというところを知りたいです。

それから、公開プレゼンのときにお話しがあった、実施したアンケートの結果をウェブサイトに掲載することや、イベントに参加された方を勉強会に招待するようなことについて、どのようなことが行われたかというところが、今の報告や資料になかったので、お聞かせ願えればと思います。

例えば、宣伝が少ないがために活動が上手くいかなかったり、チラシが作成できなかったために活動が上手くいかなかったりというところがあったりすると、少しもったいないなと思ったものですから、その辺、お答えいただけるとありがたいです。よろしくお願いします。

○茅ヶ崎CAD部

チラシ等に関しては、既存のチラシがあるので、そこで告知ができればいいかなと思ってました。

要は、追加でチラシを作成して宣伝するのではなく、団体の既存チラシの中に茅ヶ崎CAD部の活動も入っているので、それを活用すればいいかなと思いました。情報が2つ重なるのもおかしいかなと思い省いてしまいましたので、チラシ等を作るというような思惑で予算を計上しましたが、残念ながら私の方で事業計画がうまくできなかったのもので、チラシ関係について、予算を使わずに済んだというような形になってます。

もう1つの質問で、自主開催の際にアンケートを実施して、それを計上するという流れを取りたかったのですが、これについてもまた事業計画の部分が上手くできなかったのもので、アンケートを取ることができなかったのが現状です。

○山口委員

ありがとうございます。そうすると、支出の印刷製本代等がかからなかったという認識でよろしいでしょうか。

○茅ヶ崎CAD部

最終的には返金した形になります。当初10万という金額で採択していただきましたが、本来、この3Dプリンターの定価が9万円ですが実際は6万円ほどで済みました。茅ヶ崎CAD部としてのげんき基金の使い方としては、3Dプリンターを購入させてもらうという大きな大前提がありましたので、もし定価でないと購入できないと販売元に言われたら、もう予算の方がいっぱいいっぱいになるということもありまして、そういったことも含めて考えていた部分も実はありました。

○山口委員

承知しました。予算には計上したけれども、実施しなかったため決算に載っていないということですね。

○山田委員長

他にいかがでしょうか。

○若林委員

ありがとうございます。

3Dプリンターについては、有効活用をしていただきたいと思いますが、報告書の中では、代表の方がかなり忙しくなっているというような記載もありますので、様々な整理をしながら、今後の活動の展開につなげていただきたいと思います。

子供たちに対して、この活動のすばらしさを伝えていくという意味では、どう広めていくのかということがありますが、ご説明にもありました教育現場との連携窓口が閉ざされてしまっているということではありますけど、その辺、今後どういう展開をさせていくのかという考えを伺わせていただきたいと思います。

○茅ヶ崎CAD部

今後、教育機関向けといった部分においてはゼロに近いです。ですので、例えば、今まで通りという部分で申し訳ありませんが、今のところ、既存のイベント等で周知するような位置付けしか見えないかなと思っています。まだ模索中です。

教育機関などにいきなり持っていくわけにもいかない部分もあります。例えば、鶴嶺高校のボランティア塾に周知の目的として参加しようと思ったら、今年は残念ながら中止ということになって、なかなかうまくいかないという部分が実際あるという状況です。

忙しいということ言ってしまうと申し訳ありませんが、実は私も川崎の方の就労支援B型事業所の方で、そこで実は3Dプリンターを使っています。その近くに小学校があって通学路でもあるので、PTAの方も実際に来ていたりしますが、残念ながら今のところ茅ヶ崎では、今後に向けてというところが、まだ見えない部分ではあります。

○若林委員

ぜひ茅ヶ崎でも頑張ってください。よろしくお願いいたします。

○茅ヶ崎CAD部

はい。ありがとうございます。

○山田委員長

他にいかがでしょうか。

○清水委員

私自身、市民活動げんき基金を活用し市民活動をスタートさせました。それから10年以上

経っておりますが、市民活動をスタートしたとき、様々模索しているという状況はとても良く分かります。

購入した３Ｄプリンターの魅力を茅ヶ崎で広めていただきたいので、自主イベントに注力したいといったお話がありましたが、私の経験としては、逆に活動をスタートしたときは、既存のイベントに参加することも検討された方が良いと思いました。例えば、市民活動サポートセンターの事業や市役所の市民活動パネル展示などを活用して、来場者に自分たちの活動を知っていただくこともチャンスだと思いますので、ぜひチラシ等を作られた方が良くかなと思いました。

活動をスタートさせたばかりなので仕方ないですが、代表の方が忙しいと３Ｄプリンターを活用できないということは、もったいないことですから、やはり協力していただける人を増やすということが大事かなと思います。これからも期待しております。

○茅ヶ崎ＣＡＤ部

ありがとうございます。ご指摘の通り、私が動かないから活動が動かないというのは、活動の発展において致命的なので、見直していければと思います。

また、既存の事業に出展するだけで３Ｄプリンターを見てもらうだけではなくて、３Ｄプリンターで作ったものを販売するということについて、実は立ち上げ当初から、お金という部分にはあまり関心がありませんでした。そもそも３Ｄプリンターが高価ですし、それを動かすパソコンも高価ですので、なるべく金銭的な負担を少なく活動できれば良いかなと思っていましたが、今回げんき基金を活用して活動している中で、改めてお金が要るということも分かりましたので、補助金を利用するだけではなく、団体として収益を得て、それをまたチラシの作成などの活動に充てるということも団体の活動に合っていると、事業を実施した結果として分かりました。それも報告に付け加えさせていただきます。ありがとうございます。

○山田委員長

他にはいかがでしょうか。

○四條委員

現在、生成ＡＩが話題ですが、そういうＡＩ時代だからこそ、実際に触ったり作ったりするものづくりがものすごく大事なんだろうと思います。そのため、３Ｄプリンターを身近なものに感じていただいて、その魅力を伝えるという活動はとても有意義であると感じています。

その中で、まなびの市民講師に登録されたということで、それはとても良いことだと思いますし、やはりより行政に近づいた形で何らかの関係性が生まれるということが、何か１つの突破口になるような気がします。応援しております。よろしくお願いします。

○茅ヶ崎ＣＡＤ部

まなびの市民講師に登録すると茅ヶ崎駅横のビルのギャラリーを使わせていただけるということなので、普通の講座というより、美術や工芸などのものづくりに特化した講座を実施できるので、３Ｄプリンターの特性としても合ってるのではないかなという話を市役所の職員からもアドバイスいただいたので、ぜひ今年度は勉強会や３Ｄプリンターの自助具の作成など、自主開催したいと考えております。ありがとうございます。

○市長

仮にワークショップを実施するとしたら、どれぐらいのスペースが必要でしょうか。

○茅ヶ崎ＣＡＤ部

ワークショップなので、机が１台、椅子が２脚くらいあれば十分です。

○市長

道の駅で実施するのも良いかもしれません。道の駅で製品を売ることも検討の余地があると思います。

○茅ヶ崎CAD部

ありがとうございます。

○市長

道の駅も7月で1周年なので、今後、様々なイベント、ワークショップを実施していく予定なので、道の駅側もワークショップを実施する方を探してと思っています。

○茅ヶ崎CAD部

ありがとうございます。最後に少しだけ説明させていただきます。

スクリーンに映っている3Dプリンターで製作した市長の写真について、これは市長の正面の写真を1枚だけ使用してAIで立体にしています。今は3Dプリンターを使って写真1枚から簡単に立体の製品を作れます。

○山田委員長

それでは、先ほど終了のベルが鳴っておりますので、質疑応答は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○事務局

茅ヶ崎CAD部の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。

では続きまして、まちの紡ぎ舎の皆様、ご準備の方よろしく願いいたします。

なお、誠に恐縮ではございますが、佐藤市長は次の公務が控えておるため、こちらの報告の途中で退席させていただきます。あらかじめご承知いただければと思います。

それでは、まちの紡ぎ舎、事業名「茅ヶ崎の大家、空き家所有者ヒアリング事業～地域活動に興味のある大家、空き家所有者のお困りごとと関係性づくり～」の説明をよろしくお願いします。

○まちの紡ぎ舎

(まちの紡ぎ舎 報告)

○事務局

それでは質疑、評価コメントに移ります。山田委員長よろしく願いいたします。

○山田委員長

では、委員からの質問やコメントがありましたらお尋ねください。どうぞお願いします。

○坂田副委員長

ご報告ありがとうございました。

素晴らしいこの1年間の活動だったのではないかと拝見いたしました。特に面白かったのがヒアリングの結果についてです。突然タイプ、検討タイプ、実践タイプという分類をすることで、相談者が何に取り組んだら良いとか、そのような部分を見出したという点が素晴らしいと思いました。

それから、空き家を持ってる方々の深層心理については、不動産会社でも知らない情報だと思います。そこを丁寧に聞くことによって、情報を具現化したという点に関心しました。空き家は社会の課題でもありますから、こういった取り組みをきっかけにして、行政と一緒にタッグを組みながら空き家を活用していただいて、茅ヶ崎が活性化していくと良いなと考えます。

お尋ねしたいのが、次の展開について、検討タイプから進めていくということですが、活動には、やはり活動資金がかかるとは思います。そちらについては、今後どのようにされていくのかを伺ってもよろしいでしょうか。

○まちの紡ぎ舎

ありがとうございます。活動資金については、それほどかけずに動いていけるなと思っています。ヒアリング相談などは、自分でお店をやっております、そこに来た方にお話を聞いたりできると思います。

中間報告会とか最終報告会の場所とかについても、最終報告会で、まさにこれから活用していこうと思ってる場所を使わせていただいたので、こういうパターンでいけるんだっていう感触を知ることができました。

これから活用を目指している、考えている方の場所を少しお借りして、そこに、そのイベント自体の参加費をつけてみるなども検討しています。オーナーさんが何かその場を活用したときに、お金はこういうふうに入ってくるんだみたいなことを実験するような機会など、その辺りをうまく組み合わせながら動いていけるのではないかなと思っています。

広報についても、今年様々な方にヒアリングをさせていただいて、こういう点が大事なんだというイメージがついたので、それをうまく渡しながら活動していきたいと考えます。繋がり方で良いと思ったのが、やっぱり初めましての人よりも知り合いの知り合いみたいなパターンで声かけてくれるのが一番話はゆっくり聞きやすいので、僕らも人数が少ないので、1ヶ月に30人参加しても話を聞けないので、団体としても丁寧に話を聞けたらと思っています。

○坂田副委員長

ありがとうございます。

「まちの紡ぎ舎」に団体名を変えられましたが、まさに中間支援の活動でもあると思いますし、そこに経費がかからないっていうのは、茅ヶ崎市にとっても嬉しいことかもしれません。ぜひ今後の活躍をご期待申し上げます。

○山田委員長

ありがとうございます。続いていかがでしょうか。

○四條委員

6月6日に文化会館にて「こどもまんなか交流会」という催しが開催されまして、そこでは市民活動団体と企業等、それから行政が集いマッチングのような出会いの場が初めて行われました。

その中で、子ども支援の活動をしている団体さんから、当然資金面での話もありましたが、やはり「活動場所を探している」という声を多く聞きました。ですので、そういった活動と連携していただいて、活動場所を探している団体の方々の支援に繋がるといいなと思いました。ぜひ検討いただけますでしょうか。

○まちの紡ぎ舎

ありがとうございます。げんき基金のつながりで、3月ぐらいに小出の方で活動している方々の話を少し聞きました。私としては、活動の相性が良さそうだなと思ってます。ざっくばらんに話をできましたし、団体の名前も知っていただいたので、今後、何らかの形で連携していきたいと団体としても検討しています。

○四條委員

ありがとうございました。

○山田委員長

他にご質問、評価コメント等あれば、どうぞお願いします。

○若林委員

最初のプレゼンテーションのときにも伺った気がしますが、なかなか行政が手を出しづらい民間ベースの分野について、市民活動団体が問題解決に向けて取り組んでいくことは、非常に意味があるなと思っております。

行政が保有している情報は、居住者支援も含めて様々ありますので、この1年間、行政との連携や情報交換のようなことについて、どのように取り組まれたのかお伺いします。

○まちの紡ぎ舎

ありがとうございます。

この1年、特に行政との意見交換の機会は設けておりません。今の段階であれば、団体としてもある程度情報を整理できているので、ぜひこのタイミングで意見交換したいなと思います。やはりヒアリングの段階では情報がまとまっておらず、この人はこういうタイプ、あの人はこういうタイプだなというように我々としても考えが分散してたので、今のタイミングで1度お話してみたいなというふうには思っています。

団体として市民活動げんき基金を申請したきっかけは、行政の方で、空き家所有者さんに向けたアンケート調査を実施していることを見たことです。何か自分たちでも、その悩みや詳細を知りたいねといったようなところから、実は申請させていただいたので、この1年間の報告も含めて少し話したいなと思っております。

○若林委員

ありがとうございました。

茅ヶ崎市圏内は、それほど空き家が多いというような状況ではないということも聞いてはいますが、今後、高齢化が進む中で社会情勢は様々変化していきます。そういった課題に対する対応について、行政と一緒に市民活動団体が取り組むことは、非常に意味があることだと思いますので、1年間の実績をもとに行政の担当課と意見交換されてみてはいかがでしょうか。

○まちの紡ぎ舎

ありがとうございます。

○山田委員長

私から1点よろしいでしょうか。

私の研究分野では、「場所で繋がる」という言い方と「場所と繋がる」という言い方は、助詞一文字で全然意味の違うことだという考え方があります。

今回、茅ヶ崎市の中で、「場所で繋がる」だけではなく、「場所と繋がる」という思いを持って活動してくださってるということに、とても魅力を感じます。ぜひ上手く活動を軌道に乗せて、今後の展開につなげていただければと思います。

それでは、終了時間となりましたので、これにて質疑応答を終了させていただきます。ありがとうございます。

○事務局

ありがとうございました。では、続きまして、C3大作戦さん、ご準備の方よろしくお願ひします。

それでは、C3大作戦、事業名「茅ヶ崎 段ボールコンポスト チャレンジ大作戦」の報告です。よろしくお願いします。

○C3大作戦

(C3大作戦 報告)

○事務局

ありがとうございました。それでは、質疑、評価コメントに移ります。
山田委員長よりお願いいたします。

○山田委員長

では委員からのコメント、質問がありましたらお尋ねください。

○高山委員

素晴らしい着想ですね。この事業の計画をお聞きしたときに心配したのは、できた土をどうやって活用していくのだろうかということでした。また、たくさんの共感者がいないと、せっかく資源を作っても行き場所がないと思いました。どこかで土をばらまいてくるわけにもいかないので、共感者が増えることで、おそらく循環のサイクルがスムーズになるのだろうと思いました。

プレゼンテーションのときは、その辺が少し見えなくて心配でしたが、今回のご報告の中では、一部の畑ではなくて、様々な畑で良い野菜がたくさん獲れ、欲しがっている方に持ち帰っていただけるようにPRしていくということをすごく感じました。

このコンポストは、結局様々なところで紹介するにも、先ほど市長がおっしゃったように、商売に繋がるようになるというか、物品の売買は基本的にコミセンだとか公共施設でできないですね。そういたしますと、道の駅などの限られた場所でワークショップを実施して人に譲ってくつという方法がとれないかなと思うので、できればやっぱそういう仕組みといいですか、ワークショップの流れとかそういうところに共感して参加していただく人の繋がりを是非ともうまいこと仕組みを作っていて、繋がっていけるといいなというふうに感じました。できればそういう場所をより多く探していただけると良いなと思います。

○C3大作戦

ありがとうございます。実際に堆肥を使ったらどうなるかなどは、試してみないと分からない部分があるので、今検討していることとして、堆肥を使ったところと使っていないところで、どのくらい違いが出てくるのかということを示せたら良いと考えています。そういった話を聞いてくださる方もいると思いますので、堆肥の有効性や虫やモグラやネズミが発生したら困るなど、様々な考え方があると思いますので、様々な取り組みを試してみたいと考えております。

○山田委員長

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

○坂田副委員長

ご報告ありがとうございました。

私は普段、団体の活動を支援するという現場で仕事をさせていただいてるので、ご報告を伺ったときに、これから市民活動を始める方へのとても良いお手本になるのではないかと感じました。

理由としては、活動の内容が地域のニーズなのか、あるいは活動することによって地域課題が解決するのかなど、手法で悩んでしまう方々が非常に多いのですが、まずは、丁寧な準備、調査、そして実施した結果をアンケートにまとめるといったことが必要だと考えています。活動をする上での秘訣が書かれていて、丁寧にやればできるんだよということを教えてくださいました。それだったらできる、というように、ファンが増えていくんじゃないかなと思いました。

初めて団体を作って活動していきたいという方たちは、どこから手をつけて良いか分からないということがあります。例えば市民活動サポートセンターなどではアドバイスがもらえます

が、こういった形で始められると非常に良いと思います。

もう1つは、回覧板が有効だったという報告も非常に印象に残っています。近年はSNSなどに頼る傾向がありますが、やはりこういった地道な活動や地域に密着した回覧板が有効であると私自身も実感しているので、そういった部分も丁寧にやられていて非常に関心を持ちました。

ぜひ、循環型社会を目指して、活動を継続していただければと思います。ありがとうございました。

○C3大作戦

ありがとうございます。どこまで丁寧に活動できているかは分かりませんが、コアなファンを増やすというお話もありましたが、公式LINEでは、コンポストの現状の共有や、作った野菜が取れましたなどといった報告を送ってくれる方が3名ほどいらっしゃって、中には94歳のおばあちゃんもいらっしゃいます。コンポストを紹介したら、非常に気に入っていただけたようでした。こういうときはどうしたらいいですかなどを聞いてくれたり、感謝の言葉もいただけたということもありましたので、ファンがいるということが非常にうれしい経験になったなと感じています。

○山田委員長

他にいかがでしょう。

○四條委員

ありがとうございます。もう少し詳細に教えていただきたいことが2点あります。

1点目は、回覧板4000世帯という周知はすごいと思います。実は市民活動団体が望んでもできないことのような気がしますので、どういう方法で実現できたのかということ伺いたいです。それがもし、げんき基金の交付を受けたことと関係があれば、もっと良いなと思いました。

2点目も広報の話で、公式LINEを非常に上手く使われてるなという印象を持ちました。特に実績報告書の中で、質問が可能といったことが書かれてたと思います。困りごとに対して回答するといった体制を取られてたと受け取りましたが、その部分について具体的に教えていただけますでしょうか。

○C3大作戦

公式LINEですと、質問をいただいたら、私の方にメールが来ますので、その質問に対して回答するといったやりとりをしています。

また、もう少し登録人数が増えたら、全体に対して、私の方から情報を送ることなどもできるので、今後も活用していきたいと思っています。

あと、回覧板の方は、自分の地域の回覧板に他の団体さんの情報が何件か入っているのを見たので、自治会さんに相談したところ、許可されたので、回覧板を活用して広報をさせていただきました。

○四條委員

差し支えなければ、自治会名を教えてくださいと嬉しいです。

○C3大作戦

香川自治会です。結果、多くの方に回覧で情報を届けることができました。

○四條委員

ありがとうございます。

○山田委員長

他にもありましたらお願いします。

○山口委員

ご報告ありがとうございました。香川を中心に地域に根づいて活動されてきたと思います。コミュニティホールの活用については残念な結果になってしまったと思いますが、またコミュニティホールの使用の検討や、あるいは香川からもう少し対象エリアを広げていくなど、今後の具体的な考えはありますでしょうか。

○C3大作戦

いま考えてることとしては、自治会の方は定期的にやっていくということと、公民館の活用を検討しています。それから、例えば青少年会館を活用して、夏休み子供向けの事業をやってみるということを検討しています。

○山口委員

ありがとうございます。頑張ってくださいと思います。

○山田委員長

では、ちょうど時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。どうもありがとうございました。

○事務局

ありがとうございました。ここで、5分間程度休憩をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

－ 5分休憩－

○事務局

それでは、再開させていただければと思います。

次がステップアップ支援の部になります。ちがさきこどもマルシェ実行委員会、事業名「第2回ちがさきこどもマルシェ」です。よろしくお願いします。

○ちがさきこどもマルシェ実行委員会

(ちがさきこどもマルシェ実行委員会 報告)

○事務局

ありがとうございました。それでは質疑、評価コメントに移ります。山田委員長よろしくお願いします。

○山田委員長

それでは、委員からの質問、評価コメントがありましたらお願いします。

○山田委員長

それでは、私から1点伺います。子どもが主役として成長する姿は、大人がとても喜ぶことだと感じます。団体の皆様も、たくさんの感動と感激を得たのではないかなと思います。皆様の心の喜びの声みたいなものを少しご紹介いただいて、どのような部分に団体として成長を感じたのか教えてください。

○ちがさきこどもマルシェ実行委員会

団体として、協力してくれる仲間なども年々増えてはおります。当初、アトリエ根源という古民家を借りて開催しました。当時は、事業の規模が小さかったので、3人のメンバーで開催できていましたが、多くの子どもたちから出店したいといった声があり、事業規模を広げていく必要があり、隣にいる渡部さんをはじめとした多くの方々に協力いただき、市役所前に移動して事業を実施できました。

当初、私たち3人で活動していたときは、専門的な知識も全然ありませんでしたが、ノウハウを知っている方に関わっていただくことによって、マルシェ自体も広がり、個人レベルではできないことが実現できるようになったので、我々としても心の成長などを非常に感じています。

それから、活動している中で感じているのは、今の時代は、ネットで何でも手に入りますし、調べれば簡単にわかる時代で、大人も子どもも知ったつもりになってしまうことも多く、だからこそ、こういったリアルな体験を通して、自分の感情がどのように動くのかという部分について、大人も子どもも経験したことによる心の成長という部分が本事業の1番良いところだと思います。大人も子どもも関係なく、人間としての心の成長のようなものを感じています。

○山田委員長

ありがとうございます。

喜びというのは、良い意味での感染症だと思っています。ぜひ様々な場面で語っていただければと思います。

○ちがさきこどもマルシェ実行委員会

ありがとうございます。

○山田委員長

他にはいかがでしょうか。どうぞお願いします。

○若林委員

ありがとうございました。

素晴らしい取り組みだなというふうに以前から思っていました。実はコロナ以降の近年、いわゆる市民まつりというような事業は、市が整理をしていて、市民が集まって実施するお祭りなどは無くなってきております。説明にあったとおり、草の根の活動からここまで来たというのは本当に素晴らしいと思いますが、企業からの賛助金等といったお話もありましたが、今後、補助金がなくなった場合などに備えてすでに動いて営業されているとは思いますが、感触などはいかがでしょう。

○ちがさきこどもマルシェ実行委員会

ありがとうございます。おかげさまで、市民活動げんき基金を活用させていただいて、ホームページもしっかりとしたものを整備できましたし、周知用のチラシなども非常に質の高いものを作ることができました。

今年度の活動に向けて動き出してはいて、実は2件の茅ヶ崎に支社のある会社さんがお金出してもいいよみたいなことを言ってくれていて、おかげさまで、市民活動げんき基金で補助いただいた結果、団体が最初から目論んでいた自走する仕組みというところでの企業様の協賛が得られそうだなということで進んでおります。

他にも、ホームページを作ったおかげで、最近福島県の団体から、こどもマルシェをやってみたいのですが、ノウハウを教えてくださいませんかみたいなお話があったりとか、イベント当日も面白いエピソードがあって、婚姻届を出してきたカップルがいまして、茅ヶ崎は何てすばら

しい街なんだということを、僕らのイベントを見て感じてくれたということで、団体としても非常に嬉しかったというエピソードもありました。

○若林委員

はい。ありがとうございました。様々なエピソードもあったというようなことも伺いましたが、ぜひ発展的な展開ができるように、頑張っていただければなというふうに思います。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○坂田副委員長

報告ありがとうございました。

素晴らしい活動プロセスの中で、成功に終わったという話は十分伺えたのですが、団体の皆様の中には、人に言えない苦勞がたくさんあったのではないかなと思います。ぜひ、その苦勞話をお聞かせいただければと思います。

○ちがさきこどもマルシェ実行委員会

年に1回の実施ということもありますし、毎月やっているものではなく、短期間に集中してみんなでやろうねという気持ちでやってきたので、すぐに思い付くものは正直ありませんが、子どもたちが100人近く参加するので、まとめることだったり、子供たちの年齢層に合わせて、例えば、年齢が大きい子には、子供っぽくない取り組みなんだなと思ってもらう工夫とか、小さい子には、難しくないと思ってもらうという関わり方のバランスは非常に難しいと感じる部分ではあります。

共同主催の1人に保育士のメンバーがいたり、様々な活動をしている人が集まっている団体ですので、お互いの知恵や経験を生かし合っている場面は多いです。そういった意味で、あまり特段困ったみたいなものありませんが、団体としても、回数を重ねるごとに、課題を乗り越えながら、気付いたら成長しているといったところを感じております。今年の事業も始まりますが、どんな子どもたちと出会えるか、どんな課題が見えてくるかということも非常に楽しみにしています。

最後に来年に向けてというところで、子どもたちが主役ということで集まっておりますが、そうすると、やりたくないという子どももいて、そういう子どもたちも、それで良いんだよというような街であって欲しいなというところで、来年は運営側や裏方として、何かやりたい子どもたちも集めながら、表も裏もあって1つだよというところを伝えていけたら、また意義が生み出せるのかなと思っておりますので、年々コンセプトを変えながら、時代に合わせていきながら活動していきたいなと思っております。

最初は、女性陣3人で始めた企画でした。第1回目を市役所前で実施したときに、役割分担が明確でなかったと言いますか、当然思いは共感して僕も手伝いますと言いましたが、しっかりと理念を共感せずに進めてしまったところがあり、少しくライアントワークのようになってしまいました。女性陣3人が話した結果が僕らに伝わってくるっていうところがありましたので、今回の2回目は、最初からしっかりと理念を共有し、全部オープンに話していきましようというようなことを意識して進めていった結果、みんなが疲弊することなく、実行委員間で上手く連携取りながら活動することができたのかなと思っております。

○坂田副委員長

貴重な体験談ありがとうございました。他の団体さんの参考にもなるのかなというふうに思います。ありがとうございました。

○山田委員長

そろそろ時間ですので、質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

はい。ありがとうございました。

続きまして、湘南 1 Leben さん、事業名「保護犬の現状と、犬と暮らす人間のより良いありかたを知らせよう」の説明をお願いいたします。

○湘南 1 Leben

(湘南 1 Leben 報告)

○事務局

ありがとうございました。それでは、質疑、評価コメントに移ります。山田委員長よろしくをお願いいたします。

○山田委員長

では、委員から質問コメントがありましたらお話ください。をお願いいたします。

○四條委員

非常に意義のある活動をされてるなというふうに感じました。ありがとうございます。

災害時のペット避難は、非常に大きく、今後さらに重要になっていく課題だと思います。今後、具体的にどういう形で活動されていくのか。それも 1 つの団体ではなくて、例えば行政とどのように連携したいとか、あるいは他の団体さんとの連携を考えておられるのかなど、教えていただけますでしょうか。

○湘南 1 Leben

ペット災害対応については、茅ヶ崎の保健所で毎年 1 回行われています。団体としても、被災地に行って学んでおりまして、全国の動物保護団体と一緒に連携をとっております。実際、行政のペット災害の対応の方法と私たちプロの動物保護活動家では、全く違うことが多々あります。ですので、定期的を実施することは非常に意味があることかなと思っております。今後一緒にやっていけたらと思い、団体の方から声かけをしております。

それから、市民の方から連絡が入ってくることが多いです。災害のときはどうしたら良いか、先日セミナーに参加したけど、あまり内容を理解できなかったという相談が多く来ます。年間を通して多くの相談が来ますので、私の方もなかなか対応できないときもありますが、年に何回かは実施していきたいなと思っております。団体のパネルもげんき基金で買わせていただいているので、それをまた今後の活用ができたらいいなと思っております。

市が指定している小学校や中学校の避難所は、動物と人間が同じ部屋で過ごすということではできません。避難所に連れて行くことはできますが、下駄箱や体育倉庫などで過ごさなければならず、うまくマッチしないので、今後は指定避難所だけを避難所にするのではなく、協力していただける店舗とか施設とタイアップしながら、動物が苦手な人にも配慮があるような、別のスタイルも考えていかないと、現実的には収容が人間の避難場所とは違うってことですよね。それが市の今の基本の考え方で、そこが大きく差異があるっていうことですね。

○四條委員

わかりました。ありがとうございます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○坂田副委員長

ご報告ありがとうございました。

法人格取得に向けて、今一生懸命動いていらっしゃるということですが、動物愛護の活動は24時間体制ですよ。そうすると、事務局の体制を整備するのが非常に大変だというふうに思います。そういう意味では、なるべく事務局の体制整備について早めに手を打ったほうが良いかなと思います。

誰が事務のここの部分をやるのかとか、あるいは中長期計画はどういうふうに作っていくのかとか、そこは普段の活動とは全く別の力が必要になってくるので、そういった体制をまず整えていくことが、非常に大事だと思っています。

特に動物愛護活動の場合は、24時間かかりきりなので、事務局の体制整備に費やす時間の確保が非常に難しいかなと思うので、まずは体制整備に時間をかけたほうが良いかなと思い助言をさせていただきました。本当に大変な活動ですので、まず継続することが一番重要です。引き続き頑張っていただきたいと思います。ありがとうございます。

○湘南1 Leben

犬が好きでボランティアに入りましたが、パソコンに向かい、電話をし合ってという、私も半年ぐらいほとんど犬に触れておりません。仕事を抱えている中でボランティアをしているので、職場に電話が来て、お話して、そこから書類をメールで出してみたいな状況でした。

やはり資金面で安定しないと専従で職員を雇うことができないので、その体制も考えていかないといけません。法人化をして、資金を確保し、活動をやってご覧というような体制になれるよう力を入れて進めていきたいと思っています。ありがとうございます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。どうぞお願いします。

○山口委員

私も犬を小さい頃に、やむを得ぬ事情で手放さなきゃいけないことがあって、それでいつも湘南1 Lebenさんの活動に頭が下がるばかりです。こちらのチラシについて、特定非営利活動法人で会員募集と記載されておりますけれども、これは今後募集をしていくという話でしょうか。

○湘南1 Leben

制度面が固まったら、会員募集と会費の徴収は始めて良いということだったので、実際には、先行してチラシでは特定非営利活動法人という名称で募集しております。

○山口委員

すでに会員を募集しているっていう認識でよろしいですかね。わかりました。ありがとうございます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

そうしたら私から。これまでの市民活動げんき基金での活動において、げんき基金を活用できてよかったこととか、それからこれまでの活動の成果として、他の皆さんに伝えておきたいといったことがあったら、ご紹介いただいてもいいでしょうか。

○湘南1 Leben

今回、本当に市民活動サポートセンターさんのお力添えを受けて申請できました。団体として、げんき基金は知っていましたが、いつもSNSでの発信ぐらいで、しっかりと会員募集などができませんでした。医療費が足りないということをSNSで周知したら集まったこと

もありましたが、常に忙しい状況なので、このような基金があったことで本当に助かりました。

一方で、正直にお伝えすると、手続きは本当に大変でした。本当に私たちが犬のお世話をしながら、先ほど坂田副委員長も言ってるように、24時間365日体制ですし、会員もみんな働きながらボランティアで来てくださってます。ですので、非常に大変さはありませんでしたが、げんき基金のおかげで様々なものが買えました。

法人格を取得して、協賛企業さんなど頑張って集めていきたいと思っております。本当にありがとうございます。お世話になりました。

私たちのやりたい活動を資金面で応援してもらうだけではなくて、団体が頑張ることが茅ヶ崎市を良くすること、犬を飼ってる人も飼っていない人も、市民の皆様のためになるような活動としてお金を有効活用すること、それがげんき基金の趣旨だと思うので、これからもよろしくお願いしたいところです。

○山田委員長

ありがとうございました。では時間となりましたので、質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

湘南1 Lebenさんありがとうございました。

では続きましてにじカフェさん準備の方よろしく願いいたします。

それでは、にじカフェ、事業名「人生を最後まで楽しむための「414 カード死生観対話会」と「大切なものを見直す終活お話会」」です。よろしくお願いします。

○にじカフェ

(にじカフェ 報告)

○事務局

にじカフェさん、ありがとうございました。それではこれで質疑、評価コメントに移ります。山田委員長、よろしくお願いいたします。

○山田委員長

では委員からの質問コメントがありましたらお話ください。

○若林委員

私は市の社会福祉協議会の職員ですけれども、地域での様々な方々の繋がりづくりというようなことについての支援もしています。多世代で繋がっていくというようなことは、今後、非常に必要なことだなというふうに思ってる中で、テーマが色々ありますが、サロンみたいな形で100ヶ所ぐらい助成などもさせていただいております。

それから、茅ヶ崎市には13地区の地区社協がありまして、こういったテーマで、繋がる場所というものがあるんだっていうようなことも、1つ連携できてもいいのかなと可能性はあるのかなっていうふうにも思いました。それと今年から農園を始めたというお話があって、やはり外で皆さんと繋がっていくということは、非常に楽しいですし、明るい場所でのやりとりというのは、素晴らしいというふうに思いますので、その辺の展開を今後期待したいと思います。ありがとうございました。

○にじカフェ

ありがとうございます。社協さんたちとはぜひ繋がりたいと思いますが、どんな形でつながれるのか、いつも迷っていて、実際に、にじカフェをオープンするときに伺った際、うちはカフェの稼働部門とそうではない福祉の部門があるので、そこが少し分かりにくいので、稼働部

門があるとなかなか協力は難しいと、初年度に言われたことがあります。それが少しトラウマというか、説明が下手なので、どんなふうに言っているのか分からなくて、繋がれたら良いなとはずっと思っていますが、なかなか実現できていないのが現実です。

もう1つ、農園の方は去年の12月から始まりました。誰も専門家がおらず、何となく家庭菜園をやっていた方々が集まって活動していき、少しずつ野菜が採れるようになってきております。構想としては、車椅子の方が私も行きたいと言ってくださったので、車椅子の方も参加できるとか、あとは高齢者の方が、しゃがんで土を触れないので、立ったまま触れると良いなという声をたくさん聞いているので、そんな活動にしたいなという思いだけはしっかりできてるんですけども、現実には草刈に追われています。実際に農園に登録してくださってる方が40名ぐらいおりますが、実働が5名でして、そして朝4時半ぐらいから活動しないと暑くてできません。私が実際にカフェを運営している都合上、週に1回しか行けていないので、こういった部分もしっかりと整備していきたいなと思っています。

ただ、自分たちがどんなに疲れていても、行くと非常に元気になりますし、あとは草や緑を見るとすごく気持ちがいいんですね。そこで何となくご飯を食べ始めていると、様々な方が来て、青空学校じゃないですけど、何かお話し合いができたりとか、あとは今の構想は、流しそうめんをしたりとか、そんなことができる場所で多くの方がつながれる場になっていったら良いなと思っています。

○山田委員長

続いてどうでしょうか。

○清水委員

本当にすばらしい活動報告をお話いただき、ありがとうございました。

男性の参加が少ないということですが、そういった、家族の死生観をサポートできるような活動に男性が参加することも難しいのではないかと感じます。加えて障害を持っていると非常にハードルが上がると思いますので、何かそういった部分に対する取り組みなどはありますでしょうか。

○にじカフェ

ありがとうございます。

実際はやはり男性がなかなか来にくいとか、来ても弱音を吐けないとか、そのようなことを非常に感じていて、男性に来ていただきたいと思い、去年、げんき基金のこの報告会に初めて出席したときに、やはり男性を呼ぶには「お酒」と「夜」じゃないかというキーワードをいただいて、去年の報告会が6月だったと思いますが、8月から開始しました。

実際に毎回16名から26名ぐらいに参加いただいて、スナックなどが良い感じにコミュニティとして動いており、その中で男性が4、5人は参加してくださってます。

そこでは、何も話さない方ももちろんおりますが、毎回楽しみに来てくださっていて、スナックのいいところは、職業とか、どんな悩みがあるかとか、意図して聞くということはないので、みんなが楽しく飲んで、必ず1人1回は話したいので、なんか毎回テーマトークっていうのを設けていて、例えば今自分が一番推しているタレントは誰ですかとか、あとはすごく大切にしていることは何かみたいなことをみんなで話すような場を作っていて、皆さんたちはすごく楽しいって言ってくださっているのも、もっとたくさん男性が来てくださるといいなというふうに思っています。

スナックのいいところは、全員が1つのテーブルを囲むってことを何故かみんながモットーにしている、人が来るとどんどん自分たちで机を動かして全員がひとテーブルを囲むっていうスタイルなんです。

なので、もうもちろんうちは認知症の方でも、その人の人生輝かせて欲しいので、全然区別なく本当障害があっても認知症でも、ご家族と一緒に来てもらって、ご家族が多分ずっといて辛いから、その間私たち話すんで向こうで飲んでみたいんことはやれたらいいなと思っていて、それがスナックだけじゃなくって日常でもカフェの中でもできたらいいなというふうに

思っています。

○清水委員

ありがとうございます。

○山田委員長

続いていかがでしょうか。

○坂田副委員長

ご報告ありがとうございました。

補助金の使い方についてなんですけれども、より多くの方々に活動して欲しいとか、参加を呼びかけるためにウェブサイトを更新したいとか、チラシを作りたいというふうなところで基金を使われた、と伺いました。その結果ですけれども、利用者のコメントからもわかるように、確かにウェブサイトを拝見してとても見やすくなりました。クリックするとすぐ行きたいところにパッと行けるようになっていきますし、そういった意味では基金を有効活用されたのかなと思います、大変嬉しく思いました。

私自身もエンディングノートを2年前に買ったんですけど、まだ真っ白なので、何かそういうものを持っていったらナビゲートしていただけるのでしょうか。

○にじカフェ

ありがとうございます。414に関しては、現在運営ができておりますが、終活の方が少し難しく、私自身が知識がないので、例えば、墓じまいとか、デジタル遺産をどうしたらいいのかとか、そういった部分は専門家を呼ばないといけないと感じています。エンディングノートを書きましょうというテーマであっても、そういった質問が必ず来てしまいます。そういったときに、答える自信がなくて悩みどころなのですが、そんなことを参加された方に話したら、とりあえずみんなで日記みたいにかく会はあってもいいのではないかという声があったので、お持ちのノートとか、茅ヶ崎市のエンディングノートは本当書きやすいので、それをみんなで書こうよ会みたいなものを、実施しても良いのかなというふうには考えています。

○坂田副委員長

ありがとうございます。その場の持つ力って素敵ですよ。みんなでやってみようという雰囲気では何かの活動につながるカフェがあるということが、非常に素敵だと思います。

○山田委員長

ありがとうございます。では時間となりましたので質疑応答は以上とさせていただきます。

○事務局

ありがとうございました。

ここで、概ね1時間経ちましたので、10分間の休憩に入らせていただきます。

－ 10分休憩 －

○事務局

それでは再開させていただきたいと思います。

ではこれから団体交流タイムということで、概ね20分間時間を用意しております。団体交流タイムでは、市民活動のさらなる発展ですとか、げんき基金補助事業の向上などを目的に、ご活用いただいた団体の皆様から委員の方へ、また委員の方から団体の方へ、団体の方から団体の方へ活動のヒントなども含めて、交流いただきたいと思います。団体交流タイムの進行に

つきましては、山田委員長にお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○山田委員長

皆様ご報告ありがとうございました。ここからは皆さんのマイクパフォーマンスの時間です。たくさんお話しくださればと思います。司会の説明にもありました通り、ここからは評価を離れて、団体の皆様が自由に思いなどをお話いただく時間です。まずは発表の中で言いそびれたこととか、報告には馴染まないからスキップしたけれど、本当はこんなことを言ってみたかったということなどがありましたら、内容や順番も自由ですので、どうぞお知らせいただければ、マイクを回しますので、ご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

○茅ヶ崎CAD部

現在私が、川崎の方の就労支援に勤めていまして、そこでも3Dプリンターを使って障害のある方と一緒にものづくりをやっています。今回の事業計画の方がなかなかうまく進まなかった理由の1つとして、実は、逗子市の方からも依頼を受けて、そこで3Dプリンターを活用し、逗子市のタウンニュースにも少し掲載いただきました。おかげさまで茅ヶ崎CAD部も、茅ヶ崎市内ではどうか分かりませんが、他市では少し知られていたりして依頼をいただいたりすることもあります。

それから、最近、茅ヶ崎市の南湖のところに組み紐を扱っている工房があって、そこで扱っている組み紐の機械が木製で作ってあるのですが、老朽化で壊れ始めて、部品一つひとつを木で作ってあるので、それを手で作り直すのが非常に困難だという話がありました。私の方に依頼が来て、3Dプリンターで出力して提供したら、とても喜んでいただいていると聞いてます。

ですので、少し事業とは関係ない部分ではありますが、茅ヶ崎市内でも神奈川県内でも、一応、3Dプリンターを使えば1人ぐらいの労力で、皆様の生活や、仕事に繋がるような手助けができていますので、できれば皆様の方でも何か壊れたものとか、こういうものももしかしたら作れるのではないかなというのがあれば、ぜひお声掛けいただければ、こちらを利活用して、できたらいいなというふうに思ってます。特に動物は、写真を撮ってAIにかけて3Dプリンターで出力するというのも、事業所でサービスとしてやってますので、もしよろしかったらお声かけください。

○山田委員長

ありがとうございます。こういった投げかけも大歓迎ですので、続いてどうぞ何かお話になりたいところがましたらご遠慮なくお願いいたします。

○まちの紡ぎ舎

他の団体への質問になりますが、湘南1Lebenさん、特定非営利活動法人化に向けて、動かれているということで、法人化をすることに決めた何か一番大きな理由みたいなのを聞いてみたいと思います。

○湘南1Leben

一番大きな問題はやはり資金源です。今うちに約30頭のわんちゃんがあります。食費や医療費、消耗品などを合わせると、大体月に80万円ほどかかります。以前は、茅ヶ崎市の市民まつりで年に2、3回参加させてもらっていて、映像のほうに流してた子ども縁日のようなことなども実施していて、募金や売り上げなどを資金源として集めておりましたが、なかなかそういったイベントが少なく、厳しいということで、市民活動サポートセンターのお力添えで、資金を集めるためには法人化しようということで、活動と同時進行でやっております。書類の申請中ですが、一文字違うだけでも受理されないもので、苦戦しております。

○山田委員長

せっかくそういう話が出たので、私たち委員会の意向についても少しお伝えします。この市民活動げんき基金の卒業後、団体に自立していただくために、他の資金を得るためのサポートができないかと考え続けています。たとえば、外部の資金を得るには資料づくりが大変ですとか、面倒くさいというお話もありました。よって、そこを想定した上で、スタート支援の段階から、みなさまに提案書類を作成いただき、説明会にも参加をしていただくプロセスを設けて、外部資金獲得の練習のような形にしています。つまり、申請者に一通りの事務手続きを体験していただき、その後に活動していく仕組みにすれば、げんき基金の役割が1つ増えて充実するからです。これは、申請者には面倒くさい過程ですが、何かその先の糧になれば良いなという思いが含まれています。今のところはこの過程を維持し、申請者にチャレンジしていただくということで実施しています。

この意味では、ステップアップ支援の申請の際に、活動の意味が何か広がると良いなと思っています。たとえば、湘南1 Lebenの皆さんの取り組みにたいして、報告会の場で、委員会から法人格の取得はいかがですかと勧めてきた経過もあります。

さて、他の話題でも構いません。いかがでしょうか。どうぞお願いします。

○湘南1 Leben

先ほど男性の巻き込み方というお話が出て、やはり内面の自己開示だったり、感情がかなり揺れ動かされるようなジャンルの活動にいきなり男性を呼んでくるのは結構大変かと思います。男性と女性で分けてはいけないと思いますが。私たちは、おしゃべりで割とお姉様集団です。たまにイベントなどで重いものを運ぶとか組み立てる際に、男性にお手伝いいただけますかとお願いと、自分の得意なことで、活動の助けになるなら行きます。といってサポートしてくれる方が多いです。ですので、あまり内面に対して言うのではなく、あなたを見込んでお願いしていますというスタンスが必要なのかなと思います。

今若い人の巻き込み方が難しいなと思っていて、学生さんとかも興味を持って来てはくれますが、やはり学業や転居もあるので、私たちの世代が中心になって活動しています。若い人たちを巻き込む工夫があれば教えていただきたいと思います。

○山田委員長

ということですので、他の団体の皆様いかがでしょうか。多様なメンバーをどのように募集し、集めたらいいかというヒントのようなものがあれば、いかがでしょうか。

○ちがさきこどもマルシェ実行委員会

こどもマルシェですと、やっぱり力仕事が必要だったりします。物品の搬入搬出とか、そういった部分は周りにいるおじさんたちに頼んでいます。そういった方々は、お昼ぐらいになると、ビールを飲みだして、イベントにずっといることが楽しいと感じてくれます。と言いつつも、しっかり責任を持って取り組んでくれるので、最後の撤収時も子どもがいるから、見守りなんかもやってくれています。何か楽しみを与えてあげることが良いかもしれません。

○山田委員長

市民活動の本質は、「楽しい」にあるということですね。そういう意味では、たくさんお喋りができるのも楽しい要素の1つでしょうか。そういった楽しめるチャンネルが多くあった方が良いかもしれないというお話だったかもしれません。他にも、何かそういうことでお感じになっていることはありますか。

せっかく「若い人」というご提案があったので、大学に勤務している立場からお話すると、若い人は繋ぎとめようと意図するとだめなんです。常に相手にアクセスして、打ち上げ花火のように魅力を示し続けていくことが大事です。たんぽぽの綿毛のように一度に種をばらまけば、やがて根が張って育つという考え方ではだめなんですよね。ですから、今日は来てくれてありがとうとしっかりと伝え、今回が楽しかったら次に同じ人が来るかもしれないし、その仲間が来るかもしれないという感覚で待つことも求められます。心電図のように、パルスを与え続けていくのが、今の若い人の感覚に合っているらしいです。市民活動団体の方が、一生懸命

繋ぎとめようとする、若い人は、むしろそこを敬遠して離れていってしまうということです。ですから、興味があったら参加しませんかという信号を送り続けることで、集まってもらうようにするということですね。

○まちの紡ぎ舎

最後のスライドにも載せましたが、去年1年間活動して、今年は引き続きヒアリングを受けるっていうのと、将来、実家が空き家になる方を「大家未満」という言い方をしていて、大家未満の方向けの初めの1歩カフェとか、あと先ほどスナックのお話が出ましたが、スナック未満みたいな形で、空き家についてたくさん話すというよりかは、少し緩くお酒を飲んだりとか、オンライン上でおしゃべりしてみましょうみたいな会を4回ぐらい実施しました。

毎回違う方が来るので、毎回同じ話になりませんが、何となく、誰かの「実は困ってるんだよね」みたいな話に対して、偶然その場に居合わせた方が、何かこうしたらいいかもしれないみたいなアイデアを出してくれたりして、面白いなというふうに思っている、こういった取り組みを今年1年は月1ぐらいでやっていこうと思います。

そこでゆくゆくは、空き家を活用したい方と、空き家を持っている方の両方が交流して、やりとりが生まれるなど、そういうことが起きたらいいなというふうに思っている、工夫しながらやっていきたいと思っています。

○山田委員長

ここからは冗談です。「大家未満」から、「なぎなた読み」を思い出しました。ご存じでしょうか。どこで言葉を区切るかによって意味が変わってしまう言葉の読み方を指します。例えば、「今日中に食べましょう」は、「教授雲丹食べましょう」にも聞こえます。この例の通り、「大家未満」は「大闇マン」にもなり、それですと闇を抱えたままでは困るので、「スナックにじ」に行っていただければ良いですね。すみません、これは冗談ですが、活動によっては、そのような意外なつながりや展開も考えられるかもしれません。

ということで、にじカフェさんは、何かそういった活動間の連携や展開についていかがお考えでしょうか。

○にじカフェ

初めに、先ほどご提案いただいた、重たい荷物をとかはすごい目からうろこで、スナックをやっているのに昼間からお酒とかは全く考えが浮かんでなくて、今は農園が大変なので、力仕事とか結構水を毎回運ぶのに、みんなそれで腕とか、しゃがんでいるので膝を壊してしまうことがあるので、そうさそうさと思いました。

実際、竹を割ってテーブルを作ろうとかっていう話をしていて、竹を割るときに男性が居ると良いなと少し思いました。

そして、スナックに関しては、もっと多くの方が来てくださったら良いなと思っていて、無理に気持ちを広げるということはないでも、皆さんが笑顔になって帰るという場面が見れることがとても良いなと思っていて、何となくスナックだからお酒っていうふうに思っておりましたが、昼間に出していいのかなと少し思っていて、検討したいなというふうに考えました。

○山田委員長

地域や市民活動ならではのお話で、多様な取り組みがあるということです。自分が聞いてみたかったのが、カフェの方なんです。カードを使う話題作りは、最初の申請のときには、話の壁を低くするとか、言葉選びのときにあまり難しく感じないようにということでご説明くださいました。カフェを開いてみて、それまでかなり深刻に考えていた人も、話し始めの障壁が下がるのでしょうか。いかがでしょう。

○にじカフェ

カードのように目に見えるものがあつた方が、やはり言葉が選びやすいですし、カードの特

徴としては、心に留めておくっていうカードがあったり、47枚文字が書いてありますが自分が伝えたい言葉が載ってないこともありまして、自分の言葉でお話しされる方もいるんですね。それは、やはりカードがあってこそだと思っていて、すごく役立っていますし、あとは色がとても鮮やかな絵が載ってるんですね。その言葉には反応しなかったけれども、その色とか形にとっても興味があって、そこから見てたら、何かその言葉がどんどん出てきて、思い出したことがあるってお話してくださる方もいるので、何もない状態よりもカードがあった方が断然良いというふうに感じています。

私も何回も活動していますけれども、このカードの内容は初めて見たっていうことが毎回あります。それがとても面白くて、何かカードがあってこそだなというふうに感じています。

○山田委員長

そういう、言葉から連想するとか、デザインから連想するところは、確かにあるな、良い方法だなと思います。

先ほど、ちがさきこどもマルシェ実行委員会の皆さんは、それと同様のことを逆のプロセスでなさっていました。つまり、参加者にたいして、みんなでイメージをきちんと言語化してみましょう、デザイン化してみましょうという取り組みがありました。そういうところで子供たちの柔軟なアイデアが出るというお話でした。これについての工夫やアイデアについては、専門家がいらっしゃるからということでしたが、そういうイメージを形にしていくときの楽しさや難しさなどについて、何かお感じになることはありますでしょうか。

○ちがさきこどもマルシェ実行委員会

子どもたちも、やっぱり最初は、お店屋さんを基本的にやりたいと感じるんです。こどもマルシェやるよって言って、参加者を募集しますって言ったときに、大人としては、やっぱり「好き」とか「夢をかなえよう」みたいな感じで考えますが、リアルな子どもたちを見てると、それって後付けだなと思います。自分たちの子どもを見てても、まず「やりたい」が先に来て、内容を全然分かってないけど、やりたいから来て、そこに合わせていく柔軟性もあるなというふうに思っています。

ですので、集まってくる子どもたちから出てくるのは、だいたい主流のスライムとかアクセサリーとか、やっぱり偏りがすごくあります。それはある意味、一旦は流行に寄っていくんですけど、そこから様々な事例とか会話を重ねることで、自分の好きというところを自分なりに、深掘っていくというか、私はこれ好きだなというアンテナを張っていけるので、そのアンテナの広さはやっぱりすごいなと思っています。

現に自分の子どもたちの「あれやりたい」「これやりたい」が、私は「それ無理じゃない？」みたいなことがあるんですけど、そういうふうに境界線がないので、すごく広がっていくんです。そこでやっと大人の登場で、現実的に「それをじゃあどうやってやるんだ」ってなったときに、割と冷静になっていくといった形です。大人と子どものやりとりの中で、子どもたちの「好き」とか「これやってみたい」というのが、現実にはやっとな動いていくと思うので、やっぱり大人だけでも駄目だし、子どもだけでも何か形にはならないので。

そういう意味で、こどもマルシェっていうのは、保護者の方と子どもとのコミュニケーションの重要なきっかけにもなっています。大人も非常に大変です。私も前日、夜中2時まで旦那と一緒に運営もやってるのに、本当に寝れないまま朝を迎えるみたいな感じで、結構毎年「これまた来るんだな」と思います。

子どもたちのエネルギーがとても強いので、毎年時代に合わせて様々なことを考えています。例えば、プログラミングとか考えられないじゃないですか。プログラミングを自分で作ってゲームをやるとか。射的とかも、やっぱり我々が考える射的とは全然違う形で出てきたりとか、そういうところの学びがあります。

市民活動をされてる皆様も、大人の当たり前の中で、この小さい枠の中で考えてることを壊してくれるのが子どもたちだなと思うので、そういうところと言うと、アイデアとかは多く出てくると思います。

○山田委員長

ちがさきこどもマルシェ実行委員会の皆様は、マルシェの前後に子ども会議と、反省として振り返りをなさったことが、報告書から読み取れます。ありがとうございます。

それから、C3大作戦さんのご発言もぜひと思っています。最後になってしまい、申し訳ございません。報告書も今日のご発言も非常に冷静にご説明くださいました。あえて、感情の起伏をあまり出さないようになさっているように感じました。その一方で、自治会への広報が成功していたり、参加者がコンスタントに集まったりと、何か説明方法と実際のギャップみたいなものを感じました。現場では熱く動かれていると思うので、その感情の部分、活動を通してどんなふうに参加者に変化があったか教えていただいてもよろしいでしょうか。

○C3大作戦

できればもう話さずに終わろうかと思っておりましたが、そういうわけにはいかなかったようです。感情の部分というの何と言いますか、ワークショップをするんですけど、そのときは自分の好きなことだと結構しゃべれるんですけども、なかなかこういった場では話さないというのはあります。

○山田委員長

ありがとうございます。ご発表もこの報告書も、データをそろえて冷静にご説明くださいました。一方で、本当は熱くコンポストに向けて活動なさっているから、実は感情の面で様々思うところや、強く願うところが本当はあるのではないかという、少し意地悪な質問でした。

○C3大作戦

そうですね。はい。ここにいらっしゃる団体の皆様は、多分、自分から何でもやれると思います。

私も自治会で、実際に役員をやって、去年は環境の役員、今年は会計の役員をやっており、実際に自分で飛び込んでみるということに今はちょっと挑戦しています。やることは増えますが、何なんでしょう、そこでコミュニケーションを頑張ろうというふうに思ってます。

○山田委員長

ご回答いただき、ありがとうございます。

市民活動においては、最初はそういうことだと思います。目の前のやることに一生懸命向き合っていくと、何か課題が見えてきます。そこに、こんなふうに解決の手を伸ばしていこうとか、そこを掴もうと思うところから活動が始まっていくようにも思います。

○茅ヶ崎CAD部

ひとつ追加で思い付きましたが、3Dプリンターをお貸しします。自分たちの何か必要な道具を作ったり、ノベルティグッズを作って販売したりとか、茅ヶ崎CAD部を介すると私たちが動くことになってしまうので、皆様にお貸ししますので、良かったら使ってみてください。

現代は本当にAIが有能で、スマホで作ることだったりできるし、あとネットに3Dデータも出回ってます。材料も1キロで2000円程の単価で売ってます。

あと、そちらにいる方々、市役所の職員の方々にも、良かったらお貸しします。そもそも、これは私個人のものではなく、やはり市民活動げんき基金、市民の応援してくれた方々のお金で購入させてもらったものなので、私個人、もしくは茅ヶ崎CAD部で抱えているものではないなっていうのを先ほど皆様の話を聞いていて思いました。これはもう、自分たちの活動の範囲だけでなく、使ってほしい、使いたいっていう人がいれば、特に市民、ここにいる方々であれば、お貸しするべきかなと思います。私、自宅に3台あるので全然問題ありません。

○山田委員長

ということで、繋がるきっかけをたくさん提示できたという形に、最後にまとめていただきました。どうもありがとうございました。それがこの団体交流タイムの一番の狙いです。お話

でも活動でも、そしてサービスでも多面的に繋がっていただき、引き続き茅ヶ崎の元気を引き出していただければと思います。

皆さん、交流の話題提供や発表、どうもありがとうございました。ではこれで締めさせていただきます。

○事務局

お時間となりましたので、団体交流タイムを終了させていただきます。

それでは、山田委員長、最後の閉会のご挨拶の方、よろしくお願いします。

○山田委員長

皆様どうもありがとうございました。お疲れ様でした。

どうでしょうか。発表は緊張した方も、このぐらいの人数だったら大丈夫ですという方もいらっしやったかと思います。活動の成果の報告、そしてそれを他の人に聞いてもらうチャンス、そしてつながる機会として、楽しかったでしょうか。

楽しさや充実感が一番、私たちが気にしているところです。その「楽しい」とは、やはり元気の源であると思います。楽しさがきちんとつながっていくことが、とても大切ななと感じます。だからこそ、この報告会で得た情報や皆さんの活躍について、他の人に伝えていただきたいと思います。

今日、皆さんの御発表を、いろいろなことを考え、イメージしながら聞かせていただきました。途中、まちの紡ぎ舎さんのところでもちょっと話をしましたが、私は社会学という分野の研究をしています。人間のつながりみたいなところを研究する学問なので、どうしてもそこが気になるのです。

途中にも、助詞1つで物事の見え方が変わりますよという話をしました。「場所ですつながる」と「場所とつながる」です。これは、研究の観点として描かれることが多いんですね。

今までは、茅ヶ崎でみんながつながる、海があるからこんなことができる、里山があるからこんなことができる、市役所があるから取り組みができるというふうに、場所でみんながつながることを割と自然に言っていました。ですが、現代社会においては、むしろそういうやり方よりもっと多様化が進んでいます。そこを積極的に、場所とみんなの思いを結びつけようと、つなげる人、つなぎとめてくれる人がいることがとても大切という考え方になる。

そうすると、今日の6団体の発表も、皆様の活動のすべても、そのことを形にして表してくださいました。ここにとても感動しました。素晴らしいなと感じました。

とてもすてきな活動をしてくださったなと思っています。この意味では、茅ヶ崎はとてもいいまちだなと感じた次第です。

様々な御準備は、大変だったと思います。活動をする中には、大変な思いをなさった方、苦しいこと、寝られない思いも経験した方がいらっしやるかもしれません。そうした努力や御苦労のおかげもあって、市民の方に参加していただける市民活動になっていると思います。とても貴重で素敵な経験だと思います。

限られた時間ではありましたが、こういうことを通じて、団体の皆様がますます横の連携をとりながら、茅ヶ崎の元気を盛り上げていただければと感じています。

まとまらない話ではありますが、今日、共感した、感動したところがたくさんありました。感動の場を作ってくださり、どうもありがとうございました。

○事務局

山田委員長ありがとうございました。

それでは最後に、事務局を代表といたしまして、岩井くらし安心部長よりご挨拶を申し上げます。

○くらし安心部長

委員の皆様、各団体の皆様、お疲れ様でした。ありがとうございました。もう3時間20分を過ぎており長い会でしたが、個人的には、本当に全然そんな時間を感じないようなあつとい

う間の会だったなというふうに思っております。

先ほどの山田委員長のお話なんですけど、皆様の活動に感動してまして、本当に素晴らしいなっていうのは当然のことなんですけども、それぞれの活動に1個人としても行政マンとしてもすごく興味深くて、そうなんだとか、あれってこうなのかなんていうのを考えながらずっと聞いておりました。

委員の皆様からも本当に適切な様々なアドバイスがあったと思いますので、ぜひそういうものも活用していただきながら、また何かこう横の連携も生まれた雰囲気もありましたので、そういうふうになっていただけるとありがたいかなというふうに思っております。

実は私、この職、くらし安心部にこの4月に着任したのですが、それまで関わってた仕事を1つ紹介させていただきます。サステナトレセンという事業を、ここ2年ばかりやってるんですけど、聞いたことがありますでしょうか。

実は市内の小学校の授業の中で、半年ぐらいかけて、子どもたちに、サステナブルな町を作るためには、どういう課題があって、どういう取り組みをしたら良いかというのを子供たちのチームに考えさせて、それを発表してもらって、物によってはそれを実践するっていうような事業です。

要は、皆様のような活動をしていく人達を育成していきたいという思いの授業です。サステナブルな人材を作っていきたいという、トレセンというのは今ワールドカップをやっておりますが、日本サッカー協会が作ったプロサッカー選手や日本代表の選手を育成するためのシステムです。各市町村地域にトレセンというのがあって、県のトレセンというものがあって、ナショナルトレセンがあります。それぞれの地域から選抜された人達がどんどん上に行って、サステナブルに活動する人材を作っていこうっていうような、そういう事業です。

今日、皆様のまさに茅ヶ崎トレセン、茅ヶ崎選抜の皆様の話聞いたなというふうに思います。本当にすばらしいお話を聞かせていただいたなと感じます。こういう活動をする人たちが本当に茅ヶ崎の次世代が育っていったって、こういう活動がどんどん広がっていけば、もっともっと素敵なまちになっていくんだろうなというふうに思っております。

そのために、行政としては、こういう活動をしてる皆様の支援もそうですし、次世代育成というのも、もっともっと力を入れてやっていかなきゃいけないなというふうに今日改めて話を聞いて思ったところでございます。本日は本当にありがとうございました。

○事務局

最後に、事務連絡をさせていただきたいと思います。

今日お車でこられた方は、減免の手続きを行いますので、職員の方にお知らせください。

2点目は、委員の皆様におかれましては、事務連絡がありますのでお残りいただければと思います。

それから3点目は、もう募金された方もいらっしゃるかもしれませんが、げんき基金の募金箱がありますので、もしよろしければご協力いただければというふうに思っております。

事務連絡は以上でございます。ではこれで閉会とさせていただきますが、皆様への感謝と、お互いの激励の意味を込めて再度拍手で終わらせたいと思っております。本当に今日はありがとうございました。

それでは、これをもちまして令和7年度実施市民活動推進補助事業実施報告会を閉会いたします。皆様ありがとうございました。